

# ふるさと 資料紹介

= ⑤6 =

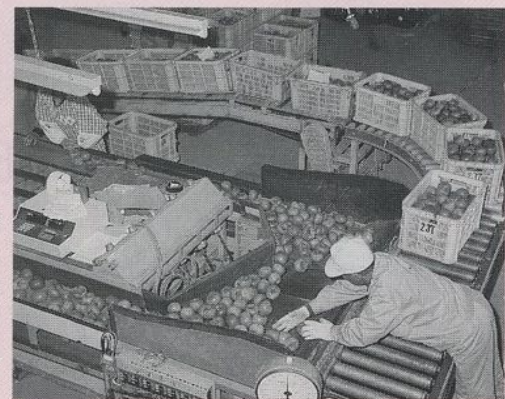
## 史料と地名からみた 地区の歴史⑪

### 山之上(三)

山之上地区南東部の上野台地は上野ヶ原といわれ、長い間小松原の原野でした。土地はやせ、水の便の悪い所でした。明治以来、多くの人が開

発を試みましたが、成功しませんでした。

その後、佐口佐太郎らの努力によつて、大正から昭和の初めにかけて柿の生産に成功し、続いて梨、ぶどうの栽培も始まりました。入植者も次第に増え、利益も上げられるようになりましたが、戦争が始まつて人手不足となり、衰退しました。



▶ 富有柿の選別風景

しかし、戦争末期の疎開を兼ねた入植者や、戦後の引き揚げ者の入植者などもあり、生産は年を追つて盛んになりました。昭和二三年には山之上果実農業協同組合を結成。その後生産高は飛躍的に増加し、「山之上の果樹」として、全国へ出荷されるようになりました。

今回は、次の方から貴重な資料を寄贈いただきました。ありがとうございます。

(平成七年十二月分)

○漁具など 十五点

(細江保さん/本郷町)

計画中の博物館建設のため、現在いろいろな資料を集めています。文化課(文化会館内/☎内四〇八)まで情報をお寄せください。